

箏が洋楽器と紡ぐ音楽

箏は江戸時代から現在に至るまでのあいだに、めざましく発展を遂げた楽器である。京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センターは、2015年に横浜インターナショナルスクールが開催した箏と洋楽器の国際作曲コンクールの受賞者・入選者の作品の一部を披露する演奏会を開催する。また公演ではコンクールの受賞者・入選者の作品に加えて、20世紀、21世紀に作曲された箏のための作品も取り上げる。この演奏会が、箏の新しい展望を供する機会となることを願っている。

The koto has shown a remarkable development from the Edo period to the present time. In 2015, the Yokohama International School held an international composition competition for koto and western instruments. The Research Centre for Japanese Traditional Music, Kyoto City University of Arts, introduces some of the competition's prize-winning works and composers — in Kyoto. The programme will include other works for koto from the 20th and 21st centuries. This concert creates a time and a space where Japanese music can confront dilemmas of modernity, and experience an encounter to stimulate its further journey.

- 《第1部》 21世紀邦楽プロジェクト入賞者の作品
 岡本伸介 Okamoto Shinsuke 《 Weaving spells into a starlit sky 》(2015,世界初演) [箏2, ヴィオラ]
 南川弥生 Minamikawa Mio 《 天道 Tiandao 》(2015,世界初演) [箏十七絃, フルート]
 服部伶香 Hattori Reika 《 Traitor 》(2015,京都初演) [十七絃・ヴァイオリン]
 稲谷祐亮 Inatani Yusuke 《 溢れる赤 flos invisible 》(2017,世界初演) [箏, 唄]
 《第2部》国内外の邦楽器と洋楽器の作品
 池辺晋一郎 Ikebe Shinichiro 《 凍る 》(1977) [箏]
 野村誠 Nomura Makoto 《 つみき Tsumiki 》(2003) [十七絃 2]
 藤家溪子 Fujie Keiko 《 きよきなぎさに On the Clear Shore 》(2016) [箏, 唄]
 クリストファー・スヴェンソン Kristofer Svensson 《 Av dagg och fattigdom 露と貧困と 》(2017,世界初演) [十七絃, ヴィオラ]
 沢井忠夫 《 鳴き砂よ Singing Sand 》(1981) [箏, ヴァイオリン]

FUSION OF HORIZONS: NEW MUSIC FOR KOTO

箏・十七絃・三絃・唄: 麻植美弥子 大谷祥子 カーティス・パターソン
 中川佳代子 マクイーン時田深山
 koto, 17gen, Sangen, Uta: Oe Miyako Otani Shoko Curtis Patterson
 Nakagawa Kayoko Miyama McQueen-Tokita
 ヴァイオリン: 江川菜緒 ヴィオラ: 柳楽毬乃 フルート: 朴優栄
 violin: Egawa Nao viola: Yagira Marino flute: Park Wooyoung

speakers: **カーティス・パターソン** [沢井箏曲院師範、横浜インターナショナルスクール邦楽プログラムディレクター]
中村典子 [京都市立芸術大学音楽学部准教授]
時田アリソン [京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター所長]

企画・構成: 時田アリソン [京都市立芸術大学日本伝統音楽研究センター所長]
 中村典子 [京都市立芸術大学音楽学部准教授]
 助成: 公益財団法人 ローム ミュージック ファンデーション JAPONisme
 後援: 横浜インターナショナルスクール・日本芸術文化国際センター ジャポニスム振興会

Organized by Alison Tokita, Director, Research Centre for Japanese Traditional Music, Kyoto City University of Arts
 Sponsored by Rohm Music Foundation
 Supported by Yokohama International School, International Center for Japanese Culture JAPONisme

2017年 9月17日 [日]

14時30分開演 [14時開場]

京都文化博物館別館ホール
 Museum of Kyoto, Annex Hall
 604-8183, Takakura, Sanjo, Nakagyo-ku, Kyoto
 入場料: 一般 2000円 学生 1000円
 チケット予約・お問い合わせ: kotohorizons2017@gmail.com
 Tickets: 2000yen Students: 1000 yen
 Bookings & enquiries: kotohorizons2017@gmail.com

http://w3.kcuu.ac.jp/jtm/events/directors_salon/kotoconcert.html



服部伶香
Hattori Reika
 1988年生まれ。東京音楽大学を経て、同大学院作曲研究部編成。これまでに作曲を麻田秋子、川島高博、能登善寛子、池田新一等の各氏に師事。第1回アソビ文化国際作曲コンクールで第1位。『Till the End of the World』と『17絃のための二重奏曲「Traitor」がマザーアースより出版されている。今後より、ドイツのユベーク音楽大学のマスター課程に進学予定。



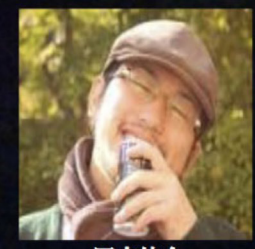
麻植美弥子
Oe Miyako
 京都市出身。滋賀県草津市在住。3歳より祖母大伴勝子の手ほどきを受け始める。NHK邦楽オープンフェスティバル合奏、長谷技校記念新国立音楽コンクール等国内第1位受賞。平成10年平和歌謡国際音楽祭最優秀賞、平成10年平和歌謡国際音楽祭最優秀賞(音楽部門)、京都芸術音楽家協会賞、芸術祭最優秀賞はか多数。びわ湖ホールはじめ各地でソリアル開催。NHK交響楽団フルート奏者菅原義氏とCD「Flute+Piccolo」等十七絃等 Collaborationシリーズ。演奏活動をイタリヤ・フランス・シンガポール・韓国で公演。中島真美と組んでDVD「やまがた」発表舞臺所収録し録音に音楽で参加。NHKはじめ、テレビ・ラジオ出演多数。ムジカA国際音楽協会会員。



江川菜緒
Egawa Nao
 音楽学生フェスティバル2015、小浜輝彦音楽塾オペラプロジェクト XIII、モイジ・オザワ松本フェスティバル「青少年のためのオペラ」、「子どものための音楽会」に参加。これまでに、宮崎静次、東儀暁、津島静、曾根千穂子、島崎陽一郎の各氏に、ヴァイオリンで師事。中村典子氏に師事。また、室内楽を中島悦子、上村井、中村典子、上森祥平の各氏に師事。15年度公益財団法人財団法人学生、エイムス西重奏団メンバーとして第3回宗次ホール弦楽四重奏コンクール第1位、ハイドン賞。現在、京都市立芸術大学大学院音楽研究科修士課程音楽専攻2年生。



野村誠
Nomura Makoto
 作曲家、編成ハーフ・ピアニスト、NPO法人芸術家と子どもたち理事、コラボレーター・フェスティバルディレクター。京都大学理学部数学科卒業。ピアノを遠藤謙博子に師事。作曲は狭手、バンド・pou-fouが中心。ミュージック・センター・メロディック・イン・ザ・シティ・ニューヨーク大学を拠点にイギリス各地で音楽活動。JCC ART AWARDSの現代音楽部門最優秀賞を受賞。国立武蔵野学院で音楽を指導。さらに有てお年寄りとの共同作曲をはじめ、朝日新聞の「天声人語」にも執筆。京都女子大学児童音楽講師。立教大学非常勤講師。東京藝術大学音楽学部作曲科卒業。第1期アソビ文化国際作曲コンクールで第1位。『あいつで』音楽・音響記録。室ヶ崎芸術大学講師。



岡本伸介
Okamoto Shinsuke
 岡山県出身。中村典子、前田守一、菅原重寛、伊藤弘之、藤井正夫、大谷正の各氏に師事。京都市立芸術大学音楽学部作曲専攻、京都市立芸術大学大学院修士課程音楽専攻卒業。大学院卒業時に大学院修士賞受賞(2016)。「現代音楽における調性論の可能性—マクス・リンドベルイの「カラクリネット楽劇」における職技法の分析」で博士(音楽)の学位取得。現在、京都市立芸術大学大学院修士課程に在籍。



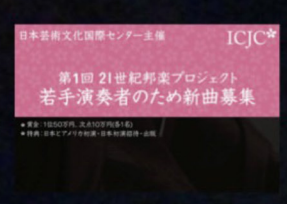
大谷祥子
Otani Shoko
 岡山県岡山市出身。宮城会大舞臺の祖母岩井敏子から手ほどきを受け、その後仙臺穂子、小崎幹子、砂崎知子に等、三絃、吉村七重に20絃を師事。宮城会全国コンクール児童の部第1位。東京藝術大学音楽学部邦楽科卒業。賞状記念全国コンクール第1位。平成13年度文化庁シンポジウム奨励賞。NHK邦楽オープンフェスティバル、朝日仏協会会員。京都市DO YOU KYOTO 本町ワーク大使。京都みやこ風情民楽アンサンブル 編団長。祥韻会主宰、轟の会会員。木暮寺真方、木暮寺文化興隆財団参議。吉崎神楽道祖上人記念館館長。道祖の道を歩む会長。ジャポニスム振興会副会長。埼玉県瑞穂市観光大使。



柳楽毬乃
Yagira Marino
 6歳よりヴァイオリンを始め、第15回 KOBE国際音楽コンクール優秀賞受賞。岡ガランサート出演。歳59回西日本国際音楽コンクール入賞。2010年依達館とスパー・キッズオーケストラのオー・アシエンに合格。3年間在籍し国内外の演奏会。2014年2月00として全日本フナーに参加。川島高子、片岡真、玉井祥子、玉井康博、豊崎泰典、の各氏に師事。現在、京都市立芸術大学大学院音楽研究科修士課程1年生。



藤家溪子
Fujie Keiko
 京都出身。東京藝術大学音楽学部作曲科卒業。同大学院修了。86年、日本音楽コンクール作曲部門第1位。95年、「思ひだすひとびとのしぐさ」が最優秀賞受賞。98年、オペラの女が評賞され、中島健雄賞受賞。98年、ダンスとのコラボレーション「In the Show」をNYで初演。オーケストラ・アンサンブル金沢の第9代コンポーザー・イン・レジデンス。2000年「ギタ―協奏曲第2番「恋すよ」」が二度目の最優秀賞。06年、「オルガン協奏曲「アラ・アンジェリ」の基にて」を、東京交響楽団定期演奏会にて初演。04年から14年まで、筑波で編成した山下省太郎「アソビ文化国際」のために作曲を続け、東京・アソビ各地の音楽祭などで公演。



日本芸術文化国際センター(ICJC)は、日本の伝統楽器の編成で豊かな音色に魅せられて、今日まで様々な作品の演奏活動を世界中で行ってきた。日本の伝統楽器・等の合奏曲は多数あるが、華・西洋楽器といふ編成の作品はそれほどない。華と西洋楽器が一緒に合奏作品が生まれることで、世界中の西洋楽器奏者と華楽器奏者がコラボレーションすることが可能になり、この編成の作品が多数誕生することで、日本の伝統文化の普及だけでなく、国際交流も深まると考え、世界中に届けようとする。ICJCは、この可能性を、広く国内外に発信する。第1回「21世紀邦楽プロジェクト 若手演奏者のための新曲募集」



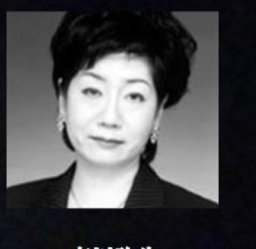
中川佳代子
Nakagawa Kayoko
 高崎芸術短期大学卒業。NHK邦楽技能者育成会卒業。1989年CD「沢井忠夫合奏団の世界」が文化庁芸術作品賞受賞。1991年岡山音楽賞受賞。1993年文化庁芸術研究員認定。2002年賞状記念全国コンクールで最高賞「賞状賞」受賞。2013年京都市芸術文化協会副会長。海外においてはアジアツアー(文化庁委託)モスクワ、サンクトペテルブルクにてソロ演奏。韓国晋州国際交響楽団定期演奏会に20絃リストとして招かれるなど公演多数。現在、現代音楽の初演、邦楽、コアスとの共演、オペラ、国際演奏など多岐な場で演奏活動を展開している。沢井忠夫氏、沢井一恵氏、若穂敬子に師事。



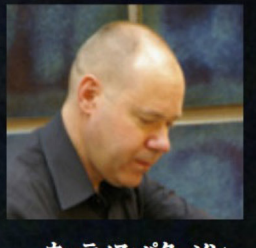
朴優栄
Park Wooyoung
 京都市出身。立命館大学経済学部卒業。京都市立芸術大学大学院音楽研究科修士課程1年生在籍。立命館大学交響楽団にて飯沼剛氏、中島健太郎と山内氏の指揮の下、オーケストラの演奏活動を続ける。これまでフルートの奏者として、金澤交響楽団、清水信貴の各氏に師事。現在、大崎義典、宮久田治彦の各氏に師事。



沢井忠夫
Sawai Tadao
 愛知県出身。作曲家、作曲家、沢井箏曲院院長。高崎芸術短期大学教授をつとめた。東京藝術大学邦楽科卒業。東京藝術大学専攻科修了。芸術祭最優秀賞を3回受賞。、松尾昌隆賞、中島健雄賞受賞。エッセイ「あいつで」を著し、2007年日本芸術、世界各地を巡る。並べた作品は、華・西洋楽器の奏者の角の角のように、がある。沢井箏曲院、沢井忠夫交響楽団を設立。生涯で出したCDは100枚以上。作品数も90を超える。それらの作品は今日も愛蔵家から愛好され、またコンクールなどでも取り上げられている。沢井箏曲院は日本各地のみならず、世界各地においても支部を持つ。専攻科会員が多数に活動を展開している。



南川弥生
Minamikawa Mio
 大阪音楽大学作曲科卒業。国楽専攻科修了。作曲を佐島良三に師事。藤田マルセル・ジュス・国際作曲コンクール最優秀入賞。"Diptyque"がCDに収録され、ヨーロッパに発表。「京都若い作曲家による連続作品展」等に出品。14年サクソフォンと室内オーケストラのための「天鳳」16年室内オーケストラのための「鼓の呼吸」発表。大阪音楽大学講師。日本現代音楽協会、日本作曲家協議会、日本女性作曲家連盟、兵庫県音楽推進会議、こぼれ音楽文化会、ひらびら日本音楽の会等各会員。NPO法人国際音楽協会理事。楽譜「天鳳」1冊「本巻」1冊「楽譜」1冊、打楽器等がマザーアースより出版。



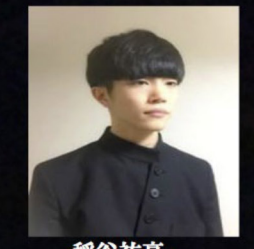
カーティス・パターソン
Curtis Patterson
 米国ロイ・カウチ音楽・外国人として初めて NHK 邦楽技能者育成会を卒業。若穂敬子、沢井忠夫、沢井一恵に師事。沢井箏曲院師範、沢井忠夫合奏団、「響」メンバー、松田寛子全開演奏会「天守物語」、小橋佳子和太鼓ユニット「AUN」全国ツアー等で幅広く出演。ソプラノ「音楽の会」、ブルース・デュオ「オ」等、R/Hライブ活動や全国ツアー、デュオ CD をリリース。横浜インターナショナルスクール邦楽プログラムディレクター。演奏活動と邦楽指導を通して華の可能性を追求する。



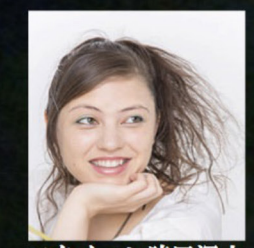
池辺晋一郎
Ikebe Shinichiro
 京都市出身。立命館高等学校卒業。東京藝術大学音楽学部作曲科卒業。同大学院修了。池内友次郎、矢代秋雄、三善晃、島岡謙之助、せたとや文化財団音楽事業部音楽監督、[N響アワー] (NHK 教育テレビ) 司会者を兼任。日本財団文化交遊協会理事等。日本作曲家協議会元会長。日本音楽作家団体協議会元会長。東京音楽大学教授。横浜みなとみらいホール館長。日本音楽コンクール第1位。文化庁芸術祭優秀賞。毎日映画コンクール音楽賞。日本アカデミー賞最優秀音楽賞。国際エミー賞優秀賞。至高賞。放送文化賞。芸術家賞。国際文化賞。第37回阪路市芸術文化賞大賞。



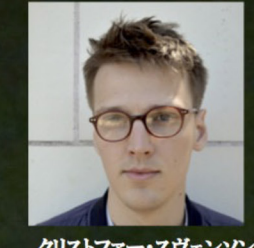
マクイーン時田深山
Miyama McQueen-Tokita
 オーストラリア生まれ。7歳から華を学び、東京で沢井一恵に師事。2004年に日本に拠点を移し、新井初音や加藤、自作作曲編曲、古典の趣向など、日本国内で積極的に演奏活動を展開している。2015、2017に東京、17絃等のための多数の作品を初演する。学校公演などを通して、今を生きる楽器としての華の魅力を伝えようとする。東京藝術大学音楽研究科修士課程修了。現代音楽コンクール「観客」第2位入賞。



稲谷祐亮
Inatani Yusuke
 1992年奈良県に生まれる。17歳より作曲を始め、作曲を土井善博子、中川謙雄、岡田加津子、葛西雅彦、中村典子、前田守一の各氏に師事。アラン・ゴースン、カルロ・フルリェジ、ライオンハルトフェーベル各氏のマスタークラスを受講。2015年京都市立芸術大学音楽学部作曲科卒業。音楽研究科卒業。ヨーロッパの大学で音楽史と作曲法を学ぶ。明治学院大学オリイオペラライブ奨学生。京都市立芸術大学大学院音楽研究科修士課程修了。京都市長賞受賞。作曲家集団「響き前線」所属。



マクイーン時田深山
Miyama McQueen-Tokita
 オーストラリア生まれ。7歳から華を学び、東京で沢井一恵に師事。2004年に日本に拠点を移し、新井初音や加藤、自作作曲編曲、古典の趣向など、日本国内で積極的に演奏活動を展開している。2015、2017に東京、17絃等のための多数の作品を初演する。学校公演などを通して、今を生きる楽器としての華の魅力を伝えようとする。東京藝術大学音楽研究科修士課程修了。現代音楽コンクール「観客」第2位入賞。



クリストファー・スヴェンソン
Kristofer Svensson
 スウェーデンの作曲家。香港でコン・ヘクテに2年を、福岡で藤枝守に作曲を師事。しばしば彼の音楽は、ちやうど神域に変わる。シブリアン・モノクロの構築が、リスと沈黙によって性格づかられた。彼の音楽は、現代音楽の技法に似ていない。彼は、純粋な音楽の探求のための素材の比較的な解釈を制御する。

会場へのアクセス: Directions:

